FONDACO
DEI TEDESCHI
VENEZIA

プレスリリース **2019年6月20日**

バルナバ・フォルナセッティ氏とヴァレリア・マンツィ氏によるアートインスタレーション「THE RULE OF DREAMS（夢の規則）」がヴェネツィアの「Tフォンダコ デイ テデスキ by DFS」にて好評開催中！

Photo credit: Matteo De Fina

世界をリードするラグジュアリートラベルリテーラーである DFS グループは、ヴェネツィアの中心地にライフスタイルデパート「T フォンダコ デイ テデスキ by DFS」を 2016 年にオープンして以来、文学イベントやアートショー、コンサートなど充実したプログラムで芸術・文化を奨励しております。T フォンダコ デイ テデスキでは 2019 年 5 月 8 日（水）から 11 月 24 日（日）までの期間限定で、バルナバ・フォルナセッティ氏とヴァレリア・マンツィ氏によるアートインスタレーション「La regola del sogno - The rule of dreams（夢の規則）」を開催しています。

当アートインスタレーションは、T フォンダコ デイ テデスキ by DFS の 4 階から中庭、そして運河に面した入口へとの建物全体に広がります。女性の顔のシルエット、無礼な猿、空中に揺れる手など、このバルナバ・フォルナセッティ氏とヴァレリア・マンツィ氏によるインスタレーションは周囲の空間、そして歴史的場所の領域そのものと相互に作用し、中世のシンボルと戯れます。

『猥褻なもの、侮辱的なもの、賭博、騒動、けんかは禁止。それ以外は自由に取引してよし」という、フォンダコの建物の入口の大理石に刻まれたこの厳格な規則は、ヴェネツィア共和国が旅する商人たちに課した

ものです。今回、2 人のクリエイティブなアーティストの作品によって、来場者の周りをウロウロする猿たちによってこの規則が「強制」され、高いところから人々を愚弄しているような雰囲気に包まれています。

また、大きな円盤上に再現された、フォルナセッティ氏を象徴するミューズのリナ・カヴァリエリを描いた女性の顔は、ヴェネツィアの偉大な芸術家、ジョルジョーネとティツィアーノの作品の感動的な美へのオマージュを捧げています。彼らの作品は 16 世紀に建てられた建物のファサード上に見られます。

バルナバ・フォルナセッティ氏とヴァレリア・マンツィ氏という、二人のアーティストのコラボレーションが実現した、期間限定のアートインスタレーション「THE RULE OF DREAMS（夢の規則）」の概要は以下の通りです。T フォンダコ デイ テデスキ by DFS にお立ち寄りいただき、幻想的なアート作品を眺めながら、ショッピングも心ゆくまでお楽しみください。

「La regola del sogno – The rule of dreams（夢の規則）：
バルナバ・フォルナセッティとヴァレリア・マンツィによるアートインスタレーション」開催概要

期間：2019 年 5 月 8 日（水）～11 月 24 日（日） 午前 10 時～午後 8 時
場所：T フォンダコ デイ テデスキ - ヴェネツィア、Calle del Fontego dei Tedeschi（リアルト橋）
料金：入場無料

DFS グループ | お問い合わせ窓口 | 電話：03-5434-0173 | 電子メール：asami.akiyama@dfs.com

DFS グループについて

DFS グループは、世界をリードするラグジュアリー トラベル リテーラーです。1960 年に香港で創業して以来、グローバルなラグジュアリー トラベル リテール業界の先駆けとして、お客様に 4 大陸 885 のメゾンから非常に人気の高い 700 以上の一流ブランドを厳選し、提供しています。現在、DFS のネットワークは、11 の主要国際空港に免税店、世界 20 か所にギャラリア店を構えるほか、提携先やリゾート地において店舗を展開しています。DFS グループは、世界最大のラグジュアリー コングロマリットである、モエ ヘネシー・ルイ ヴィトン社 (LVMH) および、DFS 共同創業者であるロバート・ミラーを株主とし、9,000 名以上のスタッフがお客様にインスピレーションをもたらすようなお買い物体験を創り出しています。2018 年には、1 億 6,400 万人以上のお客様に足を運んでいただきました。DFS グループは香港を本社とし、オーストラリア、カンボジア、中国、フランス、インドネシア、イタリア、日本、マカオ、ニュージーランド、シンガポール、アラブ首長国連邦、アメリカ合衆国、ベトナムにオフィスを構えています。

詳細は、www.dfs.com をご覧ください。

T ギャラリア by DFS について

T ギャラリア by DFS (旧称 DFS ギャラリア) は、DFS グループが他に先駆けて展開するトラベラー向けリテール事業コンセプトです。DFS は 1968 年に香港で路面店 1 号店、さらにホノルルにも店舗を相次いでオープンし、やがて世界各地の 20 か所に店舗を展開しました。現在、**T** ギャラリア by DFS はアメリカ合衆国のほか、アジア、ヨーロッパ、オセアニア、南太平洋の各地域へと進出しています。「トラベラーの T」という概念は旅と深く関連づけられ、この T ギャラリア by DFS は、プロが選りすぐった世界の一流ラグジュアリーブランドを集め、卓越したリテール環境、パーソナライズされたサービス、旅行客特有のニーズにお応えしていきます。**T** ギャラリア by DFS は、旅行者のそれぞれのスタイル、唯一無二の旅を実現します。

詳細は www.tgalleria.com をご覧ください。

別添資料

アートインスタレーションの解釈

2 人のクリエイティブなアーティストの作品はフォンダコ デイ テデスキの豊かな歴史を利用して、訪れる人たちと催眠術にかけられたかのような無秩序な遊びをしかけています。フォルナセッティの言葉そのもののように、難解な言及と局所的な皮肉を帯びた歴史的メッセージを空間に広めているのです。

この遊び心のあるロジックにおいて歴史的なシンボルを再構築することで、訪れる人それぞれの経験を通して、記憶が鮮やかに再生されます。

ここには、厳密に科学的な歴史の再構築ではなく、想像的な爆発があります。フォルナセッティは、歴史の感情的で、表現的で、物語風な側面に対してその空間を開き、その空間が感情と体験の場になるようにしているのです。

デメトリオ・パパローニによる批評

ヴェネツィアのフォンダコ デイ テデスキのために考案された、当ロケーションならではのこのインスタレーション**「The rule of Dreams（夢の規則）」**はこの歴史的な場所との意味深い相互作用を生み出すように特別にアレンジされたフォルナセッティのアーカイブから借用したイメージを展示しています。

1940 年代にアトリエを創設したピエロ・フォルナセッティの美学的思想「芸術が芸術を生み出す」という前提に基づき、バルナバ・フォルナセッティとヴァレリア・マンツィは、フォンダコの歴史に欠かせない作品を生み出した偉大なヴェネツィアの芸術家たちにオマージュを捧げる風変りな物語を作成しました。

展示プロジェクトのイコノグラフィーは過去の偉大な芸術家たちによってフォンダコ デイ テデスキのために描かれたフレスコ画に言及します。当ロケーションならではのこのインスタレーションはピエロ・フォルナセッティのミューズであったリナ・カヴァリエリの顔（フォルナセッティは彼女を「Tema e Variazioni（テーマとバリエーション）」というコレクションのアイコンにしました）とかつてフォンダコで称賛されていたジョルジョーネやティツィアーノによるフレスコ画に基づいた 18 世紀のアントニオ・マリア・サネッティの彫刻から取った女性の顔との間に近道のようなものを作り出しています。ポルティコ（柱廊）やニッチ（壁のくぼみ）など建物内外に見られるこれらの顔は様々なポーズや表情で、女性のフォルムをフォルナセッティのイメージの中心に配置しています。

建物そのもの、その歴史、その記憶との対話として考案された**「The rule of Dreams」**はフォルナセッティのナラティブにおける最も重要な 2 つの象徴的要素である腕と手、そして猿のシルエットを採用しています。「RESPICE FINEM（結末を考えよ）」という言葉が刻まれた中世のドゥカート金貨が吊り下げられた腕と手から落とされます。この慎重に行動するようにという忠告はヴェネツィア共和国を代表してフォンダコを

管理していたヴィズドーミニの事務所のドアの上にあった小さなメダリオンから取ったものです。その他、フォルナセッティの作品に見られる特徴的な人物、繰り返し登場するモチーフは猿の集団です。これは起源を1670 年に遡る大理石の額に刻まれていた命令に言及したもので、この「猥褻なもの、侮辱的なもの、賭博、騒動、けんかは禁止」という命令に背けば投獄または罰金刑に処すという条件で、商人たちにフォンダコ内での正しい行いを課していました。

1940 年代から現在までの 20 世紀の歴史という背景のなかで、フォルナセッティのアトリエは反ポップの美学のパラドックス―大衆を対象とする美学ではないとしながらも、同時に広い聴衆が認識できる美学―についてそのアイデンティティを構築してきました。ごく初期から、歴史的なアバンギャルドたち、特にダダイズムやキュビスム、シュルレアリスムの芸術作品に賛同を示しながらも、フォルナセッティはこれらの運動に対して斜に構えた姿勢を取り、美を追求する方向に向かいました。これはアバンギャルドなアーティストの原動力とは異質であることも多かったのです。

ダダイズムの父、デュシャンの主な発見は、私たちを無関心なままにさせておくほどまで、美の追求と異質である、美という概念から分離した芸術に命を吹き込めるようにした点です。キュビスムの芸術家たちの重なり合うイメージ、絵画に貼り付けられた新聞紙や木の破片でさえも、美の追求からは程遠いものでした。一方、シュルレアリスムも美の概念を追求しませんでしたが、無意識の不安の表現は試みており、多くの場合は恐れの表現に取って代わられています。私たちが現在これらすべてにおいて美的悦びを得られるというのはまた別の話であり、アーサー・ダントーがこのテーマについてエッセイで説明しているように、いまだ解決していない理論的な推論が持ち上がります。この議題はフォルナセッティの美学の原動力にとって決して異質なものではなく、ダダイストやシュルレアリストの視覚的世界に対してただちに弁証法的な立場を取り、これに従うのではなく美の概念を再定義しようとしたのです。この点では、ジョルジョ・デ・キリコとの共通点の方が多く、アトリエは彼とクラシカルおよびルネッサンス建築、その脱構築されたフォルムと反ポップスタイルで再構築されたフォルムへの興味を分かち合うとともに、分かち合い続けました。

フォルナセッティの形とイメージは手そのものの重要性を決して軽視せず、日常用品へと移ります。モノの描画またはニス塗り、または印刷されたかにかかわらず、そのプロセスは常にクラフツマンシップと芸術との境界線に作品を配置する傾向にあります。ユニークな標本として始まったフォルナセッティの作品は彼がジオ・ポンティに出会った 1940 年代になって初めて複製されるようになり、その製造数にもかかわらずその独自性を維持しています。磁器、ガラス、シルクなどの貴重な素材の追求は今もなお続いており、比較的一般的な素材が使われていても、貴重な素材であるかのように取り扱われています。このプロセスを象徴的に合成するのは手の形状です。ヴェネツィアのフォンダコ デイ テデスキ内でのインスタレーション「The rule of Dreams」でも示されているように、これはフォルナセッティの作品において様々なスタイルやナラティブで繰り返されており、前述したように、腕と手のシルエットが上から中世のドゥカート金貨を落としています。

手の動きは常に思考を表現します。ここでも、フォルナセッティは、人は考え、自分の手を使って解決策を見つけるということを思い出させてくれます。それはまるでトリスタン・ツァラの有名な言葉「Thought is made in the mouth（思考は口の中で作られる）」を言い換えて、「Thought is made in the hand（思考は手の中で作られる）」と主張しているかのようです。フォルナセッティの手のイメージは「芸術作品を形作る職人の手」と「手で作品を作るアーティストの手」の 2 通りに解釈できます。これはピエロとバルナバ・フォルナセッティ、ヴァレリア・マンツィ、そしてミラノの素晴らしいアトリエの作品に貢献している人々が単にデザイナーと定義できない理由を説明しています。